

# 抗インフルエンザ薬

成人の場合

発熱後48時間以内

Yes

No

経口 or 吸入

抗インフルエンザ薬  
投与なし

可能

困難

経口薬

吸入薬

## 第1推奨薬

※1 オセルタミビル(先:タミフル)

※1 腎機能(Ccr:mL/min)により  
投与量の調節が必要。

## 第2推奨薬

※2 ゾフルーザ錠

※2 妊婦授乳婦は現時点ではデータがなく、  
他の推奨薬の使用が優先される

## 推奨薬

リレンザ吸入 (5日製剤)

イナビル吸入 (1日製剤)

\* COVID-19 感染流行下では、  
吸入指導時の感染リスクを考慮すること。

注射薬

## 条件付き推奨薬

※3 ラピアクタ点滴

- ※3 腎機能により投与量の調節が必要。投与量の詳細は添付文書参照。
- ・他剤無効例においては、発症後48時間以降の使用もやむを得ない
- ・内服及び吸入が不可能で、また医師判断で静脈投与が必要と判断された患者
- ・内服及び吸入が可能な場合でも血液腫瘍治療中等で免疫低下があり医師判断で静脈投与が必要と判断された患者

# 抗インフルエンザ薬

小児：  
5歳未満/以上

発熱後48時間以内

Yes

No

5歳未満

5歳以上

経口

経口

抗インフルエンザ薬  
投与なし

可能

不可能

可能

不可能

第1推奨薬  
オセルタミビルDS3%  
\* 生後2週以降

条件付き推奨薬  
※1 ラピアクタ点滴  
\* 生後1か月以降

第1推奨薬  
オセルタミビル  
第2推奨薬  
※2 ゾフルーザ錠

吸入

喘息・肺炎などの  
合併・既往がある場合

可能

不可能

第1推奨薬  
リレンザ吸入（5日製剤）  
第2推奨薬  
イナビル吸入（1日製剤）

条件付き推奨薬  
※1 ラピアクタ点滴

※1 他剤無効例においては、発症後48時間以降の使用もやむを得ない  
・内服及び吸入が不可能で、且つ、医師判断で静脈投与が必要と判断された患者  
・内服及び吸入が可能な場合でも血液腫瘍治療中等で免疫低下があり医師判断で静脈投与が必要と判断された患者  
※2 薬剤耐性ウイルスの出現も報告されている

\* COVID-19 感染流行下では、吸入指導時の感染リスクを考慮すること。

## 参考文献

1. 日本感染症学会提言  
2022年提言 -2022/2023シーズンのインフルエンザ対策について  
2019年提言 ~インフルエンザ薬の使用について~
2. 日本小児科学会提言-2022/2023シーズンのインフルエンザ治療・予防指針
3. 腎機能別薬剤投与量 POCKET BOOK 第3版. じほう. 2020.
4. 小児呼吸器感染症診療ガイドライン作成委員会. 小児呼吸器感染症診療ガイドライン2022
5. FINDAT (医薬品情報プラットフォーム) 薬効群比較レビューVer.5
6. JUS-DI
7. 妊娠と薬 第2版 じほう
8. 妊娠と授乳 第3改訂 南山堂
9. 各薬剤添付文書
10. 各薬剤インタビューフォーム

## 改正履歴

2024/12/02 新規 (運用開始)